

CSR 報告書 2014

NTTファシリティーズグループ



ファシリティーズうさぎ「エコロじい」

ファシリティーズうさぎ「エコロじい」とは、ファシリティーズというお茶が大好きな、ECOを愛するウサギの老紳士です。

NTTファシリティーズのキャラクターとしてテレビCMなどで当社のECOをご案内しています。

■お問い合わせ先

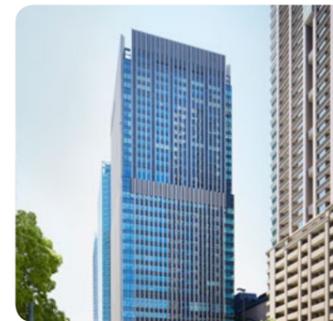
株式会社NTT ファシリティーズ
CSR 推進室

〒108-0023
東京都港区芝浦3-4-1 グランパークタワー

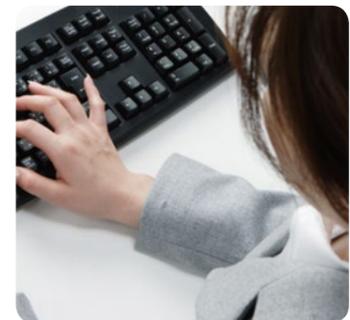
Tel: (03)5444-5187 Fax: (03)5444-5610

Eメール: xa05999@ntt-f.co.jp

URL: <http://www.ntt-f.co.jp/csr/>



つなぐ。
それは、
ECO 



編集方針..... 1	私たちの事業..... 3	人と社会のコミュニケーション..... 9	コーポレート・ガバナンス、CSR推進体制..... 19	第三者意見..... 22
会社概要..... 1	私たちのCSR..... 5	人と地球のコミュニケーション..... 11	企業倫理 コンプライアンス..... 20	
営業成績・財産状況の推移..... 2	社長メッセージ..... 7	安心・安全なコミュニケーション..... 15	海外への拡大..... 21	
		チームNTTのコミュニケーション..... 17		

私たちは、事業を通じ「Smart & Safety」な街づくりに貢献します。

私たちNTT ファシリティーズグループは、NTT グループの一員として、ICT・エネルギー・建築の技術を組み合わせたさまざまなソリューションで、「Smart & Safety」な街づくりに貢献します。



CSR 報告書 2014 で クローズアップする当社ファシリティ

新大橋ビル

NTT ファシリティーズグループの新たな研究開発拠点として2014年にオープンした新大橋ビルでは、私たちが持続可能な社会づくりに向け貢献し続けるためのさまざまな研究が、「自らのワークプレイスを実験対象とする」形で進んでいます。当報告書では同ビルでの取り組み事例に焦点をあて、ご紹介します。



編集方針

本報告書は、2013年度のさまざまなCSRに関する取り組みと実績を報告し、お客様をはじめとするステークホルダーの皆さまと、より緊密なコミュニケーションを図っていくことを目的に発行しています。

掲載内容は、2006年度に制定（2011年6月一部改定）された「NTTグループCSR憲章」で定めた4つのCSRテーマに基づき、地球と人類が調和する持続可能な豊かな社会の実現に向けたNTTファシリティーズの事業と、環境保護や社会的課題解決への取り組みなど、ステークホルダーの皆さまにとって重要と思われる情報を選定し報告しています。

報告対象期間

2013年4月1日～2014年3月31日
（一部、2014年4月1日以降の活動と見直しを含んでいます。）

報告組織の範囲

NTTファシリティーズ、7地域会社、およびNTTファシリティーズが出資する7グループ会社としています。

発行月

2014年11月（次回：2015年11月予定）

参照ガイドライン

- ・GRI (Global Reporting Initiative) ガイドライン（第4版）
- ・環境省「環境報告ガイドライン（2012年版）」

記述について

- ・本報告書に掲載した内容は、過去の事実だけでなく、発行時点における計画や将来の見直しを含んでいます。これらは、記述した時点で入手できた情報に基づく仮定や判断も含んでおり、将来の活動内容や結果が掲載内容と異なる可能性があることをご了承ください。
- ・本報告書発行後、掲載内容に誤りがあることが認められた場合は、Webサイトに報告し、正誤表を掲載します。
- ・本報告書において、「当グループ」とは、株式会社NTTファシリティーズおよびNTTファシリティーズ地域会社7社、7グループ会社を示しています。
- ・本報告書における「社員」とは、一部を除き、契約社員、人材派遣、他を含みます。

会社概要

■ 商号 株式会社NTTファシリティーズ
(NTT FACILITIES, INC.)

■ 本社所在地 東京都港区芝浦3-4-1グランパークタワー

■ 営業開始日 1992年（平成4年）12月1日

■ 資本金 124億円

■ 従業員数 5,000名

（2014年3月31日現在・NTTファシリティーズグループ）

■ 地域会社（2014年4月1日現在）
株式会社NTTファシリティーズ中央・北海道・東北・東海・関西・中国・九州

■ グループ会社（2014年4月1日現在）
NTT FACILITIES USA, INC.
NTT 施設工設計（北京）有限公司
株式会社NTTファシリティーズFMアシスト
株式会社NTTファシリティーズ総合研究所
エヌ・ティ・ティ・ジーピー・エコ株式会社
エヌ・ティ・ティ・インテリジェント企画開発株式会社
Unitrio Technology Limited

■ 業務内容 建築物・電力設備のコンサルティング、企画、設計、保守、維持管理など

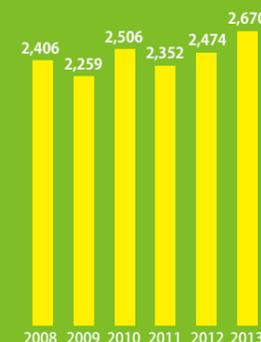
「Smart & Safety」ソリューション (主なサービス)

- メガソーラー
(太陽光発電システム構築ソリューション)
- GreenITy Building®
(環境配慮型建築ソリューション)
- 100年BCP®
(事業継続計画トータルソリューション)
- Fデータセンター®
(データセンター構築トータルソリューション)
- 高性能ビルマネジメント

営業成績・財産状況の推移

数値は全てNTTファシリティーズ、および地域会社7社の合計です。

売上高(億円)



経常利益(億円)



総資産(億円)



純資産(億円)



Life

例えば、
高機能化が進む日常空間。

私たちは次世代の街づくりを常に考え、集合住宅や商業施設、オフィスビル設計、省エネ・節電のサポートをはじめ、先進のスマート化を提案しています。

商品・サービスの事例

- ・GreenTy Building®
- ・Remoni®
- ・マンション電力提供サービス
- ・EnneVision®



アーバンエース五条公園パル

私たちの事業

社会に浸透し、支える

私たちNTTファシリティーズグループは、「地球環境を考えた統合ファシリティサービスでお客様から最も信頼されるパートナーとなる」という理念のもと、事業活動を通じてこれらの課題に取り組み、お客さまひいては社会に貢献し続けています。



アーバンネット内本町ビル

Environment

例えば、
太陽光を活用するメガソーラー。

限りある資源を有効活用し、豊かな地球を次世代に残すため、私たちはエネルギーを有効活用し、低炭素化を推進しています。

商品・サービスの事例

- ・メガソーラー
- ・複合型再生可能エネルギーシステム
- ・太陽光発電所保守サービス
- ・植物工場Fit-Farm®



吉野ヶ里メガソーラー発電所

Smart & Safety

めざす姿

地球環境を考えた統合ファシリティサービスで
お客様から最も信頼されるパートナーとなる

4つの提供価値



ビジョンを重んじ、日々進む

事業を通じた貢献を継続的に高め続けるため、私たちはグループでビジョンを共有し、日々の業務の指針としています。ビジネスのグローバル化が進む中、引き続き浸透を図っていきます。

5つの行動指針

お客様とともに高めあい、つながりあい、価値創造する



Business

例えば、
大規模オフィスや、
データセンターなどの重要施設。

経済活動の要を網羅し、その円滑な稼働に貢献するため、私たちは高効率で高信頼な施設づくりと確実なファシリティマネジメントで、社会の安心と活力を支え続けています。

商品・サービスの事例

- ・高機能ビルマネジメント
- ・100年BCP®
- ・Fデータセンター
- ・地震リスク/耐震診断



アーバンネット内本町ビル

社会の課題を見すえ、共に歩む

NTTグループの一員として、私たちならではの形で社会に貢献することをめざし、NTTファシリティグループは、多彩なCSR活動を展開しています。

NTTグループ CSR憲章に即したCSR活動

NTTグループでは、「NTTグループ CSR憲章」のもと、グループ会社が共通して取り組むべき「NTTグループ CSR重点活動項目」を定めています。

NTTファシリティーズもこれに即し、主体的かつ「自社の力が生きる」CSR活動を推進しています。



NTTグループ CSR憲章

さらに責任ある企業に向けたCSRマネジメント

NTTファシリティーズグループでは、特に「企業倫理」「情報セキュリティ」「環境保護」「人権啓発」をCSRマネジメントの柱と定め、それぞれ社内委員会を設置し、基本方針や活動要領などを策定し、研修などの一体的な運営を行っています。また、CSR推進室を本社と各地域会社に設置し、緊密な連携を図りながら、グループ横断的なCSR活動を推進しています。



● NTTグループCSRテーマ

● CSR重点活動項目

● NTTファシリティーズCSR活動の柱

● 活動事例

人と社会の
コミュニケーション

・お客さまへの価値提供を通じた持続可能な社会への貢献

・安全でスマートな社会づくりへの貢献
・グローバルな事業展開による世界各地への貢献
・震災からの復旧・復興支援

・「Smart&Safety」ソリューションの開発、提供
・データセンターなどICTインフラのグローバルな構築
・事業継続計画トータルソリューションの提供

人と地球の
コミュニケーション

・低炭素社会の実現
・循環型社会の形成
・生物多様性の保全

・環境性能に優れた製品、サービスの実現
・自社の環境負荷低減
・環境リスク対策の徹底

・自然エネルギーの積極活用
・ICTを活用した省エネソリューション提供
・自社の省エネ、3R
・環境保護活動

安心・安全な
コミュニケーション

・情報セキュリティの確保
・重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保

・情報セキュリティの徹底
・リスクマネジメント、BCP対策の強化

・ISMS認証取得、情報セキュリティ研修
・BCP体制の整備、強化
・高品質で安定した設備サービスの提供

チームNTTの
コミュニケーション

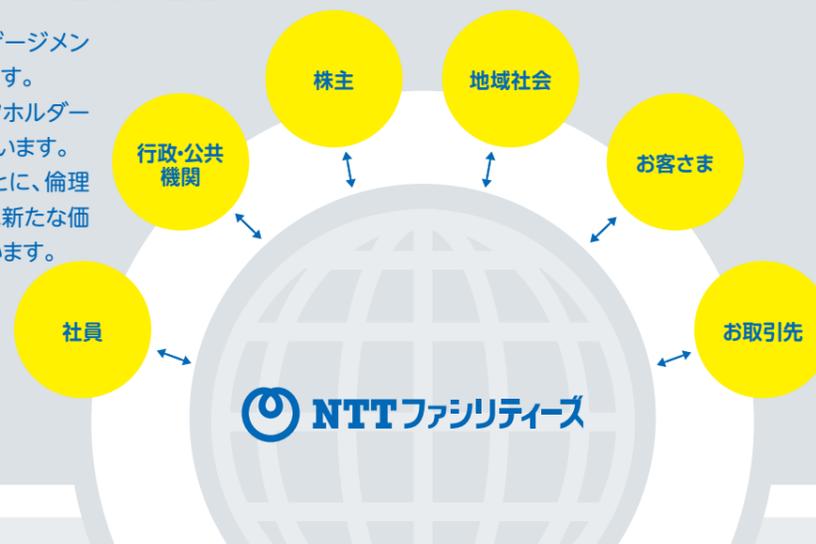
・多様性尊重と機会均等の推進に向けた取り組み
・社会貢献活動

・人権啓発の推進
・多様性の尊重と働きやすい職場づくり
・CS(お客さま満足)の継続的向上
・社会貢献活動の推進

・人権に関する社員研修
・人事制度の継続的刷新
・CS活動
・地域での貢献活動

ステークホルダーとの対話と、事業への活用の推進

ステークホルダーとの対話を通じ事業改善(エンゲージメント)を行うことが、近年、社会から強く期待されています。私たちは、日常業務における対話を重視し、ステークホルダーの皆さまとともに歩む姿勢をグループに浸透させています。対話を通じて頂戴した皆さまの多様なご意見をもとに、倫理的で責任ある事業体制の確立は勿論のこと、社会に新たな価値を提供する製品・サービスの創造に、日々努めています。



■ ステークホルダー

■ 基本的な姿勢

■ ステークホルダーごとの対話機会

地域社会

社会貢献活動、環境保護活動、災害対応などを通して地域の人々と良好な関係づくりを進めています。

・NPO、NGOとの連携
・地域でのコミュニティ活動への参画

お客さま

安心・安全に十分な配慮をしながら良質のソリューション・サービス・商品を提供し続けることで、お客さまの期待と信頼に応えています。

・お客さま満足度(CS)アンケート
・日々の業務を通じた対話

お取引先

パートナー企業、業務委託先、サプライヤなど、全てのお取引先と公正かつ自由な取引を行い、誠実に接しています。

・お取引先との幹部交流会、情報交換会
・日々の業務を通じた対話

株主

企業価値の向上に努めるとともに積極的な情報開示による経営の透明性の向上に取り組んでいます。

・株主総会
・各種IR活動を通じた意見交換

行政・公共機関

太陽光発電の実証研究などを通じて、自然エネルギー利用の普及・発展に貢献しています。

・協議会などでの情報交換
・産官学共同プロジェクトへの参画

社員

快適で安全な労働環境を提供し、一人ひとりが能力をフルに発揮できる各種制度の充実に取り組んでいます。

・社員アンケート、ホットライン
・安全衛生委員会や労使協議などでの意見

皆さまの今日と明日を支え続ける



「ファシリティ」を担う者として

日常生活でしばしば耳にする「ファシリティ」という言葉。皆さまはどのようなものを連想しますか？ 私たちNTT ファシリティーズグループは、「社会を支える施設や設備全て」と位置づけています。

社会のインフラそのものであるファシリティは時代に即し進化を続け、常に皆さまの日々を支えています。私たちは、こういったファシリティを担う責務を肝に銘じつつ、日々業務にあたっています。当「NTT ファシリティーズグループ CSR 報告書2014」では、そのような私たちの事業を通じた貢献をご紹介します。

人にも環境にもやさしく、災害にも強い街づくり

近年、ファシリティに対する社会の期待は多面的なものとなっています。地球温暖化問題に加え、東日本大震災をうけた「レジリエント(強靱)な社会づくり」の加速などもあり、建物の耐震性や安全性、エネルギー問題など、インフラに対する皆さまの関心は高まっているのではないのでしょうか。とりわけ震災後の電力不足では、電気エネルギーが経済社会の重要なインフラであることが再認識され、日本全体の電力供給構造が見直される契機となりました。これからは自然災害などのリスクに強く、環境にもやさしいエネルギー源が求められるだけでなく、その利用にあたっては

無駄のない効率的な利用方法が求められています。このような中、私たちNTT ファシリティーズグループは、NTTが通信省であった時代から「通信を止めない」という使命のもとで100年以上にわたり培ってきたICT・エネルギー・建築の技術を融合した「Smart & Safety」な街づくりを通じ、持続可能な社会の実現に寄与する多様な課題に挑戦しています。具体的には、環境にやさしく安心・安全な建物設計を行うこと、太陽光発電のシステムインテグレーターとして最適な太陽光発電システムを構築すること、消費電力量が急増しているデータセンターや昼間に大量の電力を消費するオフィスビルの省エネルギー化を推進すること、さまざまなリスクに対応した高信頼なBCP(事業継続計画)を実現すること、そしてこれらをトータルで管理・運用するファシリティサービスを提供することに、積極的に取り組んでいます。人にも環境にもやさしく、災害にも強い未来の街をつくり、支えていく。これこそが私たちがめざす姿「地球環境を考えた統合ファシリティサービスでお客様から最も信頼されるパートナーとなる」ということなのです。

安全とCSRは、企業経営の要

めざす姿を実現するためには、お客さまに提供するソリューションに磨きをかけるだけでなく、NTTファシリティーズグループを「社員一人ひとりが自信と誇りを持ち、活き活きと働ける会社」にしていく必要があります。私たちは、「安全」と「CSR」を企業経営の基盤と位置づけ、全ての事業活動を行っています。「安全」については、社員はもとより、協力会社などの関係者とも一体となり、安全を企業文化として浸透させるための取り組みをそれぞれの職場全体で続けています。また「CSR」については、NTTグルー

プのCSR重点活動項目を基盤としつつ、「企業倫理」「人権啓発」「情報セキュリティ」「環境保護」をCSRマネジメントの4本柱に据えた多面的な活動を行っています。特に人権問題については、「あらゆる差別を許さない企業体質の確立」をめざし、全社員に対する啓発活動を継続するとともに、事業活動を通じて人権問題の解決に努めています。

社会の皆さまとのコミュニケーションを大切に

近年、「エンゲージメント(ステークホルダーの意見を踏まえた事業づくり)」の考え方が注目されていますが、私はかねてより、「事業はさまざまなステークホルダーの皆さまとの関わりの中で成り立っている」という意識の浸透に努めてきました。当報告書は、そのような私たちの活動の2013年度のハイライトです。先進の環境ソリューションの開発や日常を支える社会インフラづくり、社会貢献活動といった多面的な貢献を実感いただければと思います。そして、私たちがよりよい企業グループとなるために、忌憚らないご意見・ご感想を頂戴できれば幸いです。

株式会社NTTファシリティーズ
代表取締役社長

筒井清志

人と社会の コミュニケーション

持続可能な社会の実現に向け、先進のファシリティで挑む

「情報通信技術(ICT)」を活用し、さまざまな機械がネットワークでつながった、安心・快適・便利な日常 – スマート化された社会の実現に向け、日々、技術革新が続いています。

私たちNTTファシリティーズは、オフィスや公的機関など、社会を支えるファシリティの革新を通じ、社会の進歩に挑戦しています。

CSRテーマ

私たちは、より豊かで便利なコミュニケーション環境を実現するとともに、情報通信技術を活用し、人口減少・高齢化社会におけるさまざまな課題解決に貢献します。

CSR活動の柱

- ・安全でスマートな社会づくりへの貢献
- ・グローバルな事業展開による世界各地への貢献
- ・震災からの復旧・復興支援



CASE 01

次世代の「働く場所」の検証と創造

新大橋ビルで続く、多面的な実証実験

NTTファシリティーズ新大橋ビルは、研究開発オフィスと試験検証施設を統合した、「次の20年を見すえた実証実験型オフィス」です。2014年オープンした同ビルにおいて、NTTファシリティーズは、自らのワークプレイスを実験対象として、環境面から安全面に至るまで、多面的に次世代のオフィスファシリティの在り方を検証しています。

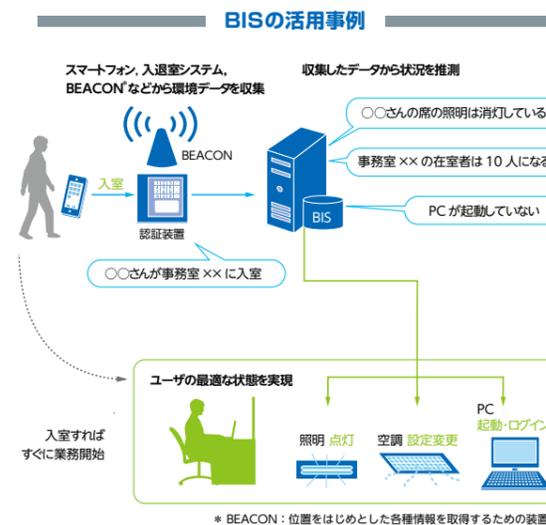
「次世代の『働く場所』」を定義する

生産性を高めるための設備の工夫は、働く場所づくりにおける不断の課題といえます。特に「効率的でセキュアな職場づくり」「快適で機能的な職場づくり」への社会の注目は高く、現在、新大橋ビルでは、これらの検証が大きなテーマとなっています。

「効率的でセキュアな職場づくり」に貢献するBIS

BIS(建物情報連携システム)とは、建物内のさまざまなシステムを連携させ、また、建物内で働く人の位置情報と連動させることで、高度なセキュリティ管理やきめ細かい自動設備制御、効率的なエネルギー管理などを実現するシステムです。

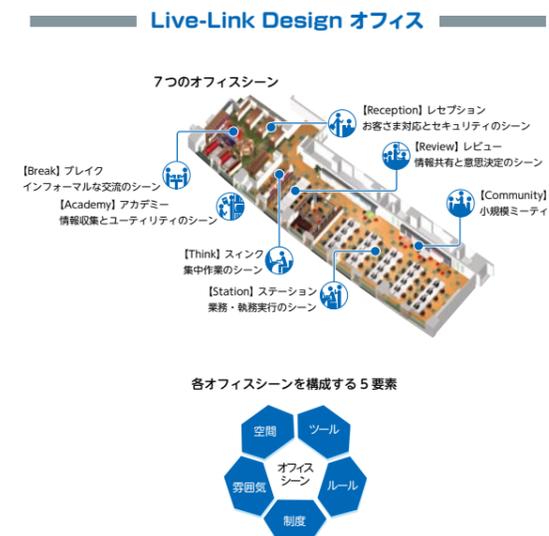
照明や空調の調整から無線ネットワークやシンクライアント端末の管理などをBISが一元管理することで、建物内で働く人々には、煩雑な手続きや機械操作を意識せずに、効率的でセキュアな職場が提供されます。そのような次世代のワークプレイスづくりをめざし、新大橋ビルでの実証実験が続いています。



「快適で機能的な職場づくり」に貢献するLive-Link Designオフィス

Live-Link Design オフィスとは、NTTファシリティーズが提唱する、高い知的生産性と省エネルギー性などを実現し、経営資源としてのオフィスを最適化するためのオフィス設計・構築のコンセプトです。

具体的には、オフィスに必要な機能を7つのシーンと5つの要素に切り分けて課題を整頓。これを業態や業務内容など顧客の利用実態や改善ニーズに即して検証することで、最適なレイアウトや機器構成、改善提案を実施しています。新大橋ビルではこれをBISなどと連携させることで、さらなる進化に挑戦しています。



Live-Link Design® オフィス (商品・サービス紹介)

人と地球の コミュニケーション

ファシリティのグリーン化は、私たちの使命

地球温暖化の加速や、生物の多様性の減少 - 深刻化する環境問題を克服し、健やかな地球を次世代に残すことは、社会全体の責務です。私たち NTT ファシリティーズは、「地球環境を考えた統合ファシリティサービスでお客様から最も信頼されるパートナーとなる」というめざす姿に即し、自社の、そして社会のグリーン化に取り組んでいます。

CSRテーマ

私たちは、自らの環境負荷を低減し、地球にやさしいコミュニケーション環境を構築するとともに、情報通信サービスの提供を通じて社会全体の環境負荷低減に取り組めます。

CSR活動の柱

- ・ 環境性能に優れた製品、サービスの実現
- ・ 自社の環境負荷低減
- ・ 環境リスク対策の徹底



CASE 02-1

低炭素・低排出に寄与するファシリティの革新

ファシリティに高まる期待

社会に浸透し経済活動を支えるファシリティに求められる環境性能は、CO₂排出量の削減は勿論、省資源の徹底や汚染物質の抑制など、多岐にわたります。特に近年、企業に対し、自社のみでなく製品・サービスを通じた環境負荷低減にも積極的に貢献する姿勢が求められる中、低炭素・低排出なファシリティソリューションに注目が集まっています。

環境性能の明日を考える

新大橋ビルでは、最先端の環境配慮型ファシリティについての研究を多面的に推進しています。特に、自然エネルギーのさらなる有効活用や、設備全体でのスマートな電力管理といった「新世代のシステム」の構築に向け、着実な成果をあげています。

スマートコミュニティの進化の鍵となる 複合型再生可能エネルギーシステム

NTT ファシリティーズでは、次世代のスマートコミュニティの電力供給システムとして、災害時にも安定した電力供給とクリーンエネルギーの積極活用とを両立する複合型再生可能エネルギーシステムを提供しています。

新大橋ビルでは、屋上に設置した太陽光発電、地下室に設置した難燃性リチウムイオン電池、そして需給管理装置により、同システムを構築しています。さらに、新電力からFITBEMS[®]を介してデマンドレスポンスの要求を受け付けることで電力需給管理の検証を行うなど、地産地消型スマートコミュニティ実現に向けて研究開発を推進しています。

※FITBEMS：ICT技術を活用した、独自のビル・エネルギー・マネジメント・システム

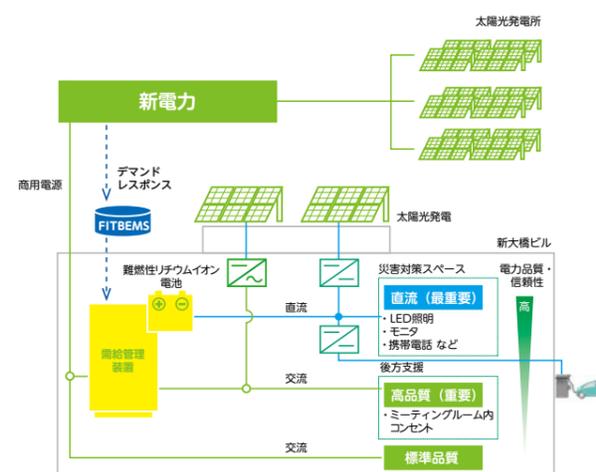
データセンターを統括的に 管理・監視・分析・制御するDCIM

クラウドサービスの普及などを背景に、データセンターが担う役割は拡大しています。これをうけ、NTT ファシリティーズでは、データセンターの統括的かつ効率的な運用をサポートするシステムとしてDCIM[®]の開発に力を入れています。

NTT ファシリティーズのDCIMでは、情報通信サービスを提供するICT装置だけでなく、空調設備や給電設備からの稼働情報と連携し、分析、連携制御を行います。これにより、データセンターの稼働状況に即したきめ細かい電力管理による消費電力の低減を実現すると同時に、設備スペースの効率的な設計・運用も可能としています。

※DCIM：データセンター・インフラストラクチャ・マネジメント

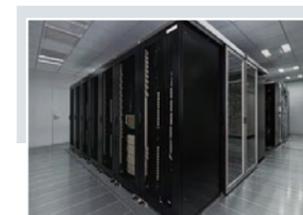
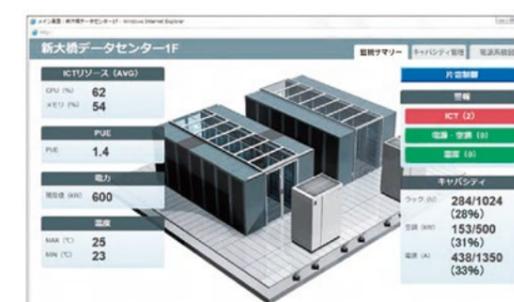
複合型再生可能エネルギーシステム



■ 新大橋ビルに導入された複合型再生可能エネルギーシステム概要

複合型再生可能エネルギーシステム (商品・サービス紹介)

DCIM管理・分析ツールの画面例



新大橋ビル「みせるサーバールーム」では、DCIMをお客様に公開しています。



CASE 02-2

太陽光発電事業の積極推進

自然エネルギーを活用する社会づくりへの貢献

地球環境に優しい社会インフラを構築していくうえで、自然エネルギーの活用は、大きな意味を持つテーマです。一方、そのさらなる普及に向けては技術的な課題も多く存在し、様々な業界で研究が続けられています。NTTファシリティーズも、「環境性能に優れたファシリティ」の将来像を考える上で、鍵となる課題と位置づけ、積極的に技術革新に挑んでいます。

メガソーラーで日本をリード

NTTファシリティーズは、太陽光発電システムインテグレーションのリーディングカンパニーとして全国1,164か所、190メガワット (MW)の太陽光発電システムの構築に携わるとともに、自社メガソーラー発電所を30施設 (66MW)構築、発電事業者となることで、環境に配慮した社会づくりをリードしています。(構築実績は2014年6月30日現在)

日本のメガソーラーの在り方を示す 「吉野ヶ里メガソーラー発電所」

2013年7月に竣工した「吉野ヶ里メガソーラー発電所」は、NTTファシリティーズの7番目の太陽光発電事業用サイトです。その規模は12MWと国内有数のものであり、想定年間発電量も12,850MWhと一般家庭の消費電力換算で約3,600世帯分に達するなど、市場拡大期に入った日本の太陽光発電産業をけん引する施設といえます。

同サイトは緊急時におけるライフスポットやEV充電器への電力供給など、地域のエネルギーセーフティネットとしての役割を果たします。

太陽光発電の普及を地域全体で推進する佐賀県の象徴的な取り組みとして注目される同サイトは、日本のメガソーラー事業の今後の可能性を示唆しています。

国内有数の規模となる吉野ヶ里メガソーラー



施設名称 : 吉野ヶ里メガソーラー発電所
(愛称 : てるてるの森)
設置場所 : 佐賀県神埼市
発電開始 : 2013年7月
設置容量 : 12.077 MW (メガワット)
年間発電量 : 12,850 MWh (一般家庭約3,600世帯分)

地域との調和も、 重要な環境性能と位置づけ

地球環境にやさしい社会インフラとは、低炭素化や低排出化に加え、敷地内の環境配慮や周辺コミュニティとの協調といった「地域との調和」にも留意する必要があります。とNTTファシリティーズは考えます。

このような視点に立ち、吉野ヶ里メガソーラー発電所も、敷地内の文化財の保護を徹底した設備設計は勿論、周辺の景観に留意したレイアウトを採用しています。また、公募で選ばれた愛称「てるてるの森」のもと、地域に愛される施設をめざし、地域コミュニティとの交流活動への参画や施設の一般公開、環境教育の受け入れ、EV充電施設の開放などを積極的に行っています。

地域との調和、共生を重視した施設をめざす

■ EV急速充電器



■ てるてるの森情報館



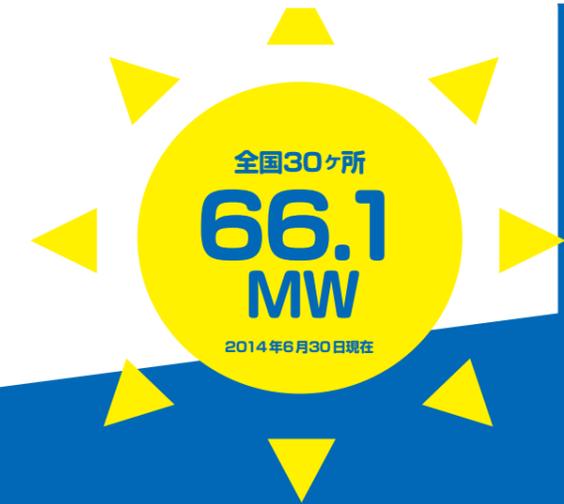
■ 環境教室の様子



NTTファシリティーズの 太陽光発電事業

全国に展開するメガソーラー発電所

NTTファシリティーズは、太陽光発電の発電事業者として、またシステムインテグレーターとして、日本における自然エネルギーの有効活用を推進します。



- | | | | |
|----------------------------|-------------------------|-----------------------|-----------------------------|
| 1 ソーラーガーデン姫神 1.8 MW | 9 F 下秋間太陽光発電所 3.4 MW | 17 F 多可太陽光発電所 1.7 MW | 25 吉野ヶ里メガソーラー発電所 12.0 MW |
| 2 F 宮の郷(東サイト)太陽光発電所 1.1 MW | 10 F 白州太陽光発電所 1.6 MW | 18 F 西宮太陽光発電所 2.0 MW | 26 F 小城太陽光発電所 1.3 MW |
| 3 F 小幡太陽光発電所 2.4 MW | 11 F 明野太陽光発電所 1.0 MW | 19 F 洲本太陽光発電所 1.7 MW | 27 F 琴海形上太陽光発電 1.9 MW |
| 4 F つくばみらい太陽光発電所 1.1 MW | 12 F 恵那中野方太陽光発電所 0.9 MW | 20 F 海南太陽光発電所 1.9 MW | 28 F 都城太陽光発電所 0.9 MW |
| 5 F 阿見太陽光発電所 2.3 MW | 13 F 恵那山岡太陽光発電所 1.1 MW | 21 F 尾道太陽光発電所 1.5 MW | 29 F 宮の郷(西サイト)太陽光発電所 2.6 MW |
| 6 F 土浦太陽光発電所 1.7 MW | 14 F 常滑太陽光発電所 1.1 MW | 22 F 宮島太陽光発電所 2.1 MW | 30 F 牛久太陽光発電所 4.0 MW |
| 7 F あさひ太陽光発電所 5.2 MW | 15 F 鈴鹿太陽光発電所 2.2 MW | 23 F 仁井田太陽光発電所 0.9 MW | |
| 8 F 佐倉太陽光発電所 2.3 MW | 16 F 伊賀太陽光発電所 1.3 MW | 24 F 臼杵太陽光発電所 2.4 MW | |

次世代を支える、太陽光発電システム構築ソリューション

MEGA SOLAR

メガソーラー



安心・安全な コミュニケーション

生活インフラとして、24時間365日、支え続ける

高度情報社会において、ファシリティはBCP対策の要-震災など自然災害が発生した際、施設では、安全性は勿論のこと、安定的な稼働が維持されることも重要です。このためには、電力装置のみでなく情報通信設備もまた施設の中核を担う機器と位置づけ、稼働を確保する必要があると、私たちNTTファシリティーズは考えます。

CSRテーマ

私たちは、情報セキュリティの確保や通信の利用に関する社会的な課題に真摯に取り組み、安心・安全な利用環境と新しいコミュニケーション文化の創造・発展に尽くします。

私たちは、社会を支え生活を守る重要なインフラとして、災害時にも強い情報通信サービスの提供に努め、いつでも、どこでも、だれとでもつながる安心と信頼を提供します。

CSR活動の柱

- ・情報セキュリティの徹底
- ・リスクマネジメント、BCP対策の強化



CASE 03

レジリエントなファシリティづくりへの挑戦

強靭さと安定性は、安心・安全の両輪

現在、災害に強いインフラづくりに向け、「レジリエンス(強靭さ)」がキーワードとして着目されています。このようななか、有事にもダウンすることなく稼働し続ける強靭なファシリティづくりは、安定的に顧客サービスを提供し続ける社内体制づくりとならび、NTTファシリティーズの考える「安心・安全」の基本要素となっています。

東日本大震災を教訓に、備えを加速

2011年の東日本大震災では、東日本の各所で重要な施設が損傷をうけ、ライフライン停滞の一因となりました。これを教訓に、新大橋ビルでは、震災への備えを安全・安心なファシリティづくりの最重要課題と位置づけ、抜本的で革新的な研究を進めています。

震災後の建物の安全性を解析し「見える化」する「揺れモニ」

地震の後、建物の継続使用の可否を含む安全性検証を速やかに行うことは、安全・安心の観点からも、また顧客満足の観点からも、極めて重要です。

NTTファシリティーズが開発した建物安全度判定サポートシステム「揺れモニ」では、数多くの建物設計で培ったノウハウと震災後の復旧の経験をもとに、自社の持つ3次元振動試験システム「DUAL FORCE」での実証実験を繰り返し、独自の高精度な観測・分析システムを構築しています。この結果、信頼性の高い安全度を即座に判定して、被害の度合いを分かりやすく「見える化」することが可能となり、入居者に対し安全性の速やかな情報提供を実現しています。

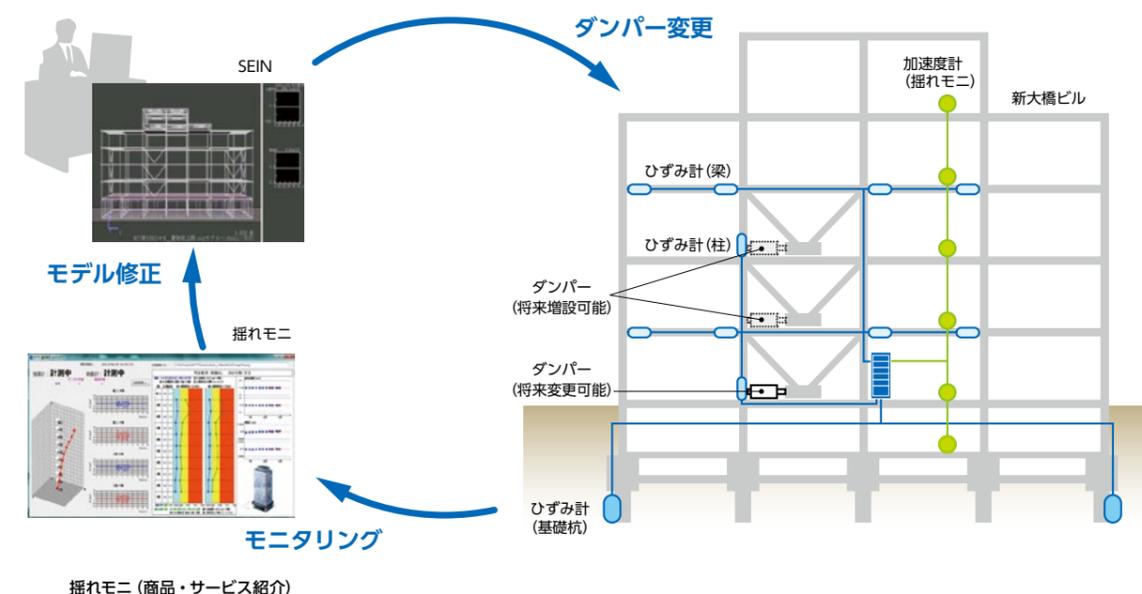
モニタリング技術と連携する可変型制震構造システムを構築

新大橋ビルでは、「揺れモニ」で用いる建物の加速度計に加え、躯体各部に設置したひずみ計によるデータも集積しています。これらの多面的なデータを独自の構造解析システム「SEIN[®]」で解析することで、解析モデルの精度向上が可能となります。

加えて、同ビルでは、建物の骨組各部に設置したダンパーの変更や追加など、制震構造システムの見直しを繰り返しています。これらの先進的な可変型制震構造システムによる実証的な検証を通じ、NTTファシリティーズは、柔軟で有効な制震構造づくりをめざしています。

※「SEIN」は株式会社NTTファシリティーズ総合研究所が提供する構造計算プログラム
<https://www.sein21.jp/NewSeinWeb/>

可変型制震構造システム概要



チームNTTの コミュニケーション

社員を活かし、社員と共に歩む

社員は、企業と共に成長する貴重なパートナー - 高齢化社会の進展やライフスタイルの多様化など、「共に歩むチーム」である社員への配慮のため、企業が対応すべき社会的な課題は多数あります。また、企業市民として地域コミュニティとの良好な関係づくりが求められる中、その担い手である社員と価値観を共有し、行動を促すことの重要性も、日々、増しています。

CSRテーマ

私たちは、「チームNTT」として、高い倫理観と人権意識を持って事業に取り組み、働きやすい職場環境の整備や個の成長・多様性の尊重に努めるとともに豊かな地域社会づくりを推進し、社会的使命を果たしていきます。

CSR活動の柱

- ・人権啓発の推進
- ・多様性の尊重と働きやすい職場づくり
- ・CS（お客さま満足）の継続的向上
- ・社会貢献活動の推進



CASE 04

多様な「人材」活用に向けた取り組み

「社員」との共栄に向け、良好な関係を重視

NTTファシリティーズでは、社員を、企業の競争力の源泉となる貴重な「パートナー」と位置づけています。この考えに基づき、「チームNTT」として社員の自己実現と企業の持続的な成長が両立できる仕組みづくりを重んじ、継続的に人事制度の刷新と処遇の向上に努めています。

キーワードは、「働き盛り」と「熟練者」

現在、日本社会は、未経験の高齢化社会、若者不足社会に向かいつつあります。これをうけNTTファシリティーズでは、かねてより働き盛り世代に対する育児・介護支援と、熟練者でもある定年退職者に対する再雇用促進とを、人材活用の重点項目にすえ、積極的に推進してきました。これらの制度利用は着実に広まりつつあります。

働き盛りのワーク・ライフ・バランスを 支援する、育児・介護支援制度

働き盛りである若手から中堅世代にとり、子育てや家族の介護といった「仕事と家庭の両立」は、就労をめぐる大きな課題といえます。また近年は、ワーク・ライフ・バランスに対する関心の高まりをうけ、企業に対して多様な働き方の機会提供を求める声も高まっています。

NTTファシリティーズでは、各種の育児・介護支援制度を設定し、社員が仕事と家庭を両立しつつ生き生きと自己実現できる場を積極的に構築しています。

2014年4月時点の育児、介護支援制度の利用者は、合計43名となりました。引き続き、これらの制度のさらなる利用促進に向け、職場への告知や利用しやすい環境づくりなどを推進していきます。

熟練者の生涯キャリアを共につくる 雇用制度

高齢化社会の進展をうけ、企業には、労働力として高齢者を活用する制度づくりが期待されています。企業にとり、定年退職を迎えた高齢者は豊富な業務経験を有する「熟練者」でもあると、NTTファシリティーズは考えます。この考えに基づき、かねてより雇用の生涯キャリアプランづくりの一環としての60歳の定年退職後もグループ会社などにおいて、本人の希望により、1年更新の契約社員として、最長65歳まで働き続けられる制度を導入しています。

現在、61歳以上の社員数は約350名となっています。NTTファシリティーズでは、熟練者の知見を有効に活用できる職場づくりに向け、引き続き、制度の充実と利用の促進を図っていきます。

育児・介護制度一覧表

制度名称	対象者	概要
出産休暇	女性	出産のために、産前は6週間、産後は8週間の休暇を取得できます。
看護休暇	男性 女性	疾病や予防接種、健康診断、配偶者の出産などに対し、一定期間の看護休暇を取得することができます。
育児休職	男性 女性	育児に専念するために、子が満3歳になるまで休職できます。
育児のための短時間勤務	男性 女性	育児のために小学3年生の年度末までの子を有する期間について、一定期間勤務時間を短縮して働くことができます。
特別休暇（育児時間）	女性	生後満1歳に達しない乳児を育てるために、日々、一定時間の育児時間の申し出を行うことができます。
子の養育を行う者の時間外勤務の免除	男性 女性	小学校入学前の子を養育する社員は、一定の期間、時間外勤務を免除するよう申し出ることができます。
子の養育または介護を行う者の時間外勤務制限、深夜業の制限	男性 女性	小学校3年生以下の子の養育、または負傷等による常時介護のため、時間外勤務の上限設定および深夜業の制限が可能です。
育児に専念するために退職した方の再採用について	男性 女性	育児に専念するために退職した方は、一定の要件を満たした場合は、選考により、再採用されることがあります。
介護のための短期の休暇	男性 女性	家族の介護のため、勤務できないときは、短期の休暇を申し出ることができます。
介護休職	男性 女性	常時介護を必要とする家族の介護に従事するため、一定期間休職できます。
介護のための短時間勤務	男性 女性	常時介護を必要とする家族の介護に従事するため、一定期間勤務時間を短縮できます。

年齢層別人員構成（2014年4月時点）

性別	年齢	社員数
男性	30歳以下	801
	31～40歳	860
	41～50歳	809
	51～60歳	1,627
	61歳以上	345
女性	30歳以下	222
	31～40歳	103
	41～50歳	54
	51～60歳	9
	61歳以上	6

コーポレート・ガバナンス、CSR推進体制

コーポレート・ガバナンス

NTTファシリティーズでは、経営の健全性と透明性、お客さまや社会からの信頼を維持し、企業価値を継続して高め、いくため、コーポレート・ガバナンスを経営の重要課題と位置づけ、ガバナンス体制を構築しています。

取締役会・監査役会の構成

取締役会は取締役16名で構成され、原則、月1回開催する取締役会において、経営に関する重要事項を関係法規、経営判断の原則および善良なる管理者の注意義務等に基づき決定するとともに、取締役の職務執行の相互牽制などを行っています。

監査役会は、社外監査役2名を含む監査役3名で構成され、原則、月1回監査役会を開催するほか、各監査役は、取締役会など重要な会議に出席しています。

経営会議と各種社内委員会

NTTファシリティーズでは、会社の重要事項について、原則として、社長、副社長、常勤取締役および各組織長で構成する経営会議における審議を経たうえで決定しています。

また、会社経営・グループ経営に関する重要事項を課題ごとに議論し、適正な意思決定を行うための各種委員会を設置しています。

内部統制システム

NTTファシリティーズでは、NTTグループ全体の「内部統制システムの整備に関する基本方針」などに従い、同システムに必要な措置を実施することを取締役会で決議し、規程や体制などの整備に取り組んでいます。

また、財務報告に係る内部統制システムについても、内部監査などにより有効性を確認しています。

CSRマネジメント体制

NTTファシリティーズグループは、NTTグループのCSRテーマに即したCSR重点活動項目を推進し社会に新たな価値を創造する一方、自社グループが社会に一層の責任を果たし続けるため、特に「企業倫理」「情報セキュリティ」「環境保護」「人権啓発」をCSRマネジメントの4つの柱と位置づけています。具体的には、それぞれに社内委員会を設置し、企業ビジョンとの整合性を確保しつつ、基本方針・制度・基準・活動要領などを策定し、研修などの一体的な運営を行っています。これらをもとに、事業を通じた影響を正負両面で管理しています。

また、CSRマネジメントをグループ横断で推進する要としてCSR推進室を本社と各地域会社に設置し、本社CSR推進室を中心に緊密な連携を図りながら、当グループの一体感を高め、横断的なCSR活動を推進しています。

企業倫理・コンプライアンス

企業倫理推進体制

NTTファシリティーズでは、地域会社7社と合同で、企業倫理の徹底と強化に向けた取り組みを審議・決定することを目的に、副社長を委員長とした企業倫理委員会を設置しています。企業倫理委員会は、原則として年2回定期開催するほか、社員から不正行為などの申告・相談があった事案について、事実関係の調査・究明に当たります。

企業倫理相談窓口体制の充実

NTTファシリティーズでは、不正・不祥事の未然防止のみでなく、早期に問題の顕在化を図り迅速に対処することを目的に、企業倫理相談窓口として、「企業倫理ヘルプライン」を設置しています。また、NTTグループの横断的な窓口として弁護士による社外相談窓口を活用し、当グループ内のほか、取引先など社外からの相談も受け付けています。

これらの相談窓口の周知は、社内誌や社内HPなどのほか、「職場の悩み110番（セクハラ・パワハラ・人権問題等）」、「カウンセリングセンタ（人間関係、家庭、仕事等）」の相談窓口全ての連絡先を記載した携帯カードを作成し、全社員に配付しています。

企業倫理意識の向上施策

NTTファシリティーズでは、日本経団連の企業倫理月間に合わせ、10月を「企業倫理推進月間」に設定し、社内誌や社内ホームページを通じて、企業倫理の重要性やCSR推進室長のメッセージを発信し、社員の企業倫理意識のさらなる向上を図っています。

さらに毎年、全社員が不正・不祥事、法令違反、人権問題などについて、わかりやすく理解できるよう具体的事例を挙げて、何が不正・不祥事などに当たるのかをクイズ形式で学ぶ「企業倫理等eラーニング」も実施しています。

企業倫理等アンケートの継続実施

社員の企業倫理意識の向上に向けた取り組みを、NTTファシリティーズ一体となって進めています。2013年度における企業倫理等に関するアンケートは、2014年2～3月にNTTファシリティーズグループ社員等を対象に実施しました（回答数：6019人）。今後も、アンケートの結果を踏まえつつ、遵法かつ倫理的な事業慣行を企業グループ全体に維持・浸透していきます。

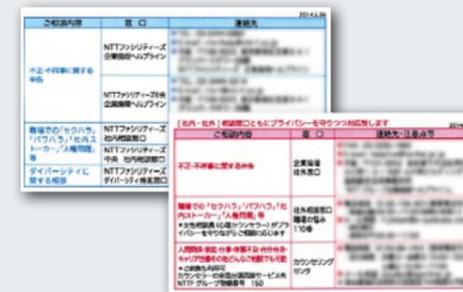
NTTファシリティーズのガバナンス体制



NTTファシリティーズグループ CSR推進体制



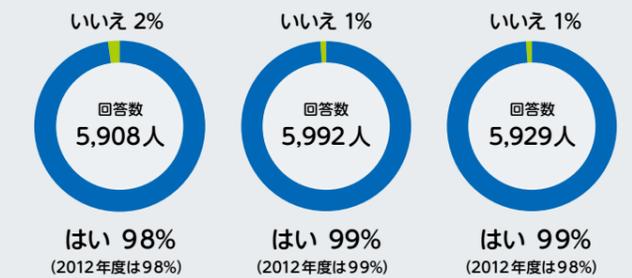
各種相談窓口を記載した携帯カード



各種相談窓口 年間利用実績 17件

アンケート結果の一例

「NTTグループ企業倫理憲章」あるいは「企業倫理憲章」を知っている
日頃、法令遵守・社会的規範・社内規則など企業倫理等の遵守を意識し行動している。
企業倫理を遵守しなかった場合、会社にどのような影響を与えるか知っている



海外への拡大



シンガポールのデータセンターエンジニアリング会社への出資

近年、データセンターに関する競争は国際的に過熱しており、特に東南アジア地域には、同地域を世界的なデータセンター網のハブと位置づけたデータセンター事業者の進出が相次いでいます。東南アジア地域での事業基盤構築をめざすNTTファシリティーズは、2014年10月、シンガポールのデータセンターエンジニアリング会社である、Pro-Matrix Pte Ltd.の過半の株式を取得しグループ会社としました。同社の現地におけるノウハウとNTTファシリティーズのデータセンターエンジニアリング技術を組み合わせることにより、今後一層活性化するシンガポールおよび近隣諸国のデータセンター市場に対して、NTTファシリティーズシンガポール支店とともに、総合的なデータセンターエンジニアリングサービスを提供していきます。

8月に開催された「NTTファシリティーズグループ キックオフミーティング」の様子



Expansion to overseas

NTTファシリティーズは、経済のグローバル化とそれに伴う日本企業の海外進出をうけ、事業のフィールドを海外へと拡大し続けています。

香港支店の開設

香港は、金融サービスおよび情報通信サービスの拠点として世界的に脚光を浴びており、日本企業をはじめさまざまなグローバル企業の進出が続いています。

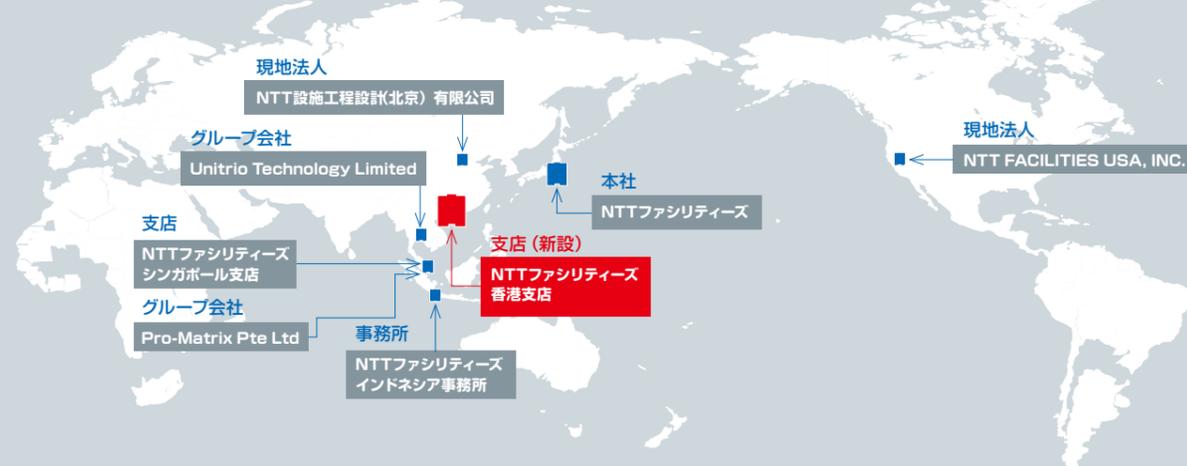
NTTファシリティーズは、これまで米国、中国（北京）、シンガポール、タイに拠点をもち、データセンター施設・設備の設計・構築および保守・運用などのサービスを中心に積極的に海外事業の展開を行ってまいりましたが、特に近年の香港市場におけるデータセンター施設の構築・運用に対するニーズの高まりをうけ、2014年に香港支店を開設。6月より営業を開始しました。

香港支店を足掛かりに、データセンター設計・構築および保守・運用などのサービス提供を同地域で加速するとともに、世界規模での拠点ネットワークを通じたきめ細かい顧客サービスの実現を推進していきます。

香港支店概要

- 1) NTTファシリティーズ 香港支店
(英語表記: NTT FACILITIES, INC. Hong Kong Branch)
- 2) 所在地
Level 23, One Island East, 18 Westlands Road, Island East, Hong Kong
TEL: +852 3750 7670
- 3) 支店長
小西 昭治
- 4) 事業概要
データセンター施設・設備の設計・構築及び保守・運用など

NTTファシリティーズの海外拠点



第三者意見

法政大学大学院 人間社会研究科
准教授

土肥 将敦 氏

一橋大学経済学部、一橋大学大学院商学研究科博士後期課程を経て、2009年に高崎経済大学地域政策学部准教授。2014年より現職。商学博士。著書に『CSR経営—企業の社会的責任とステイクホルダー』（共著、中央経済社）、『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著、NTT出版）などがある。



まず、今年度のNTTファシリティーズのCSR報告書は、方向性が刷新されている点が目を引く。環境面を主体とし取引先へのコミュニケーションツールの色合いが強かった従前の報告書に比べ、CSR活動の多面的な発信を加速する意気込みを感じる。以下では、ハイライト版および詳細版の内容、また担当者への聞き取り内容を踏まえた上で、同社のCSR活動における取り組みの成果と情報開示について評価すべき点と今後の課題・展望についてまとめる。

今年度の変化と評価すべき点

ハイライト版は、幅広い社会のステークホルダーを読者として意識し、内容もNTTグループのCSR活動の柱に即した多面的で読みやすい報告書になっている。特に、「ファシリティ」という必ずしも耳慣れない事業をCSR活動の柱である「4つのコミュニケーション」に即しひもとき、アプローチを明示した上で事例提示した点を、進化として評価したい。また、Highlight2014(P9-P18)では多彩な事業を紹介しているが、中でも全国に広がりを見せる太陽光発電（メガソーラー）事業は、再生可能エネルギーを有効活用した社会的に意義あるソーシャル・ビジネスとして今後も期待したい。

一方、詳細版は、より詳しく知りたい読者に配慮し、上記CSR活動の柱ごとに取り組みを体系的に整理するなど、媒体の立ち位置を明確にした工夫が見られる。この結果、専門家にも成果が見やすく整理されている。内容面では、同社ではマテリアルバランスの算出を通して環境負荷の低減が推進され、また「環境保護推進アクションプログラム」も2001年度から展開されるなど、環境面での対策が着実に進展していることがうかがえる。

次年度に向けた課題と展望

次年度以降においては、本報告書を通して構築した報告基盤をもとに、一歩踏み込んだCSR活動と情報開示を期待したい。例えば、ハイライト版P18において、従業員の育児・介護を促進する施策を掲載している点は女性活用の促進が社会的に求められる現在、時宜にあっており評価できる。来年度以降は一歩進め、諸制度が「どのくらいの利用実績があり、活用面でどのような課題があるのか」という点も開示して頂きたい。

中期的な活動目標についても、上記「環境保護推進アクションプログラム」からのステップアップを期待したい。報告書を通読すると、人材面や社会面などでも、要所に定量的な目標を立てて活動していることがわかるが、これらもふまえて包括的な「CSRアクションプラン」へと、より体系化していくことも必要であろう。言うまでもなく、CSRへの取り組みは抽象的なスローガンのみで推進されるものではなく、具体的なCSR目標を設定し、PDCAの仕組みをつくり、そのサイクルを地道に回していくことによって進んでいくものだからである。

また、昨今のメディアにもある通り、先述したメガソーラー事業の推進においても、森林伐採や景観問題等を含め地域社会との対話の必要性が高まっている。事業推進にあたって、各ステークホルダーからどのような意見があり、どのような解決策を示してきたのかという具体的なプロセスを開示されることも必要であろう。従前の報告書では知ることの出来ない非財務情報を、このCSR報告書において多面的かつ積極的に開示することによって、同社がより一層「信頼できる企業」として幅広いステークホルダーから支持・評価されることを期待している。

第三者意見をうけて — NTTファシリティーズ CSR推進室 —

自然エネルギーの普及・拡大や社会全体の環境負荷低減に貢献するメガソーラー事業の取り組みについて評価をいただきました。引き続き「Smart & Safety」をキーワードに、環境との共生を実現する多様なソリューションの開発と提供に積極的に取り組んでいきたいと考えております。

また、今回のCSR報告書については、重点的に取り組む4つの「CSRテーマ」に即した構成とし多面的な活動内容を発信するコミュニケーションツールへの脱皮を図っていることについて評価をいただき一方で、環境面以外のCSR活動に関する包括的な目標設定やアクションプランの策定、および情報開示などについて貴重なご提言をいただきました。ご提言を真摯に受け止めるとともに、重要な課題として社内にも共有させていただきます。

NTTファシリティーズグループは、今後もステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを大切にしながら、「信頼されるパートナー」として、社会の持続的発展に貢献するべく取り組んでまいります。